

たはら歴史探訪クラブ

その12

秋葉山常夜燈(一)

今日、秋葉山常夜燈は各地区に見られる身近な石造物です。

通称「秋葉山」は、静岡県秋葉山に鎮座する秋葉神社のことで、火防の神として江戸時代に東海・関東地方に広がりました。現在でも台所に秋葉神社のお札が祀つてある家が多く、代参でお札をもらいに行く地区もあります。また、地区の消防団が参詣したり、上棟式でも秋葉山方向に拝礼したりします。さらに、常夜燈前で春や秋にお祭りを催し餅投げを行う地区もあり、馴染みの深い信仰と言えますでしょう。

昔は現在のような防火用水がなく、水を遠くに飛ばす機械もありません。火災がおきたら最期、燃えやすい木造や草葺きの家屋は、必死の消火活動の成果もむなしく、たちまち灰となったことでしょう。それゆえに、昔の人々は我々よりも火災の恐ろしさを感じ、防火の意識が高く、神に祈る気持ちは強かったに違いありません。常夜燈は、江戸時代の文化・文

政期に多く建立されました。また、当初は道沿いや地区の境などに建立されましたが、道路の拡幅で寺・神社に移動されている場合が多く、元の位置を保っていないものがほとんどです。

田原町には、最も古い寛政十一年(一七九九年)のものをはじめ、ごく最近までの47基の常夜燈があります。常夜燈の形は「神明型」と呼ばれるものが普通ですが、まれに庭に飾られる石灯籠に似た「春日燈籠型」と呼ばれるものもあります。「春日燈籠型」は町内でも3基しかない特別の形です。中でも野田校区の雲明と国道259号線の船倉橋にある常夜燈はひととき大きく、今でも風化が進んでいない良質の花崗岩を使っています。その姿、彫りは素晴らしいものです。しかしながら、この常夜燈もご多分に漏れず移動しているのです。

これらの常夜燈には施主、目的、年月が彫られています。いずれも地域の安全を祈願したもので、村の防火、安全を願って道を歩く人の道しるべとして、人々は絶えず灯りを点したことでしょう。そんな人々の思いが、この常夜燈には込められています。

広報たはらは、森林資源保護のため再生紙(古紙配合率100%・白色度70%)を使用しています。

■神明型の常夜燈
神戸青津・八所神社(天保二年)



■春日燈籠型の常夜燈
田原萱町・船倉橋(寛政十一年)



■春日燈籠型の常夜燈
野田雲明・大福寺跡(享和三年)



▽田原町博物館 22局1720

今月の表紙

「梅と桜」と言えば、美しいものが並んでいることの例えですが、春を代表する花として、古くは桜より重んじられたという梅。現代では花よりも、初夏につける実をイメージされる方が多いかもしれません。

何より梅干しは、日本の食文化に欠かせない名脇役です。梅干しに含まれるクエン酸は、疲労回復や老化防止などに効果があるそうです。また、長期保存ができるため、昔から家庭の常備食として重宝されてきました。最近でも、災害時の非常食として注目されていますね。発生が心配される東海地震に備え、今年はこの家庭で作ってみてはいかがでしょうか。ただし、体のことを考えて塩の量を控えて漬けると、こんどは日持ちしなくなりそうです。ご注意ください。

左党の方にとっては梅酒が非常食でしょうか。もつとも、我慢できず飲んでしまうのがオチかも。

【人口と世帯数】

総人口	36,827人	
男性	18,770人	
女性	18,057人	
世帯数	11,430世帯	
出生	27人	死亡 22人
転入	59人	転出 100人
増減	-36人	

(平成14年2月1日現在・増減は1月中)

【行政面積】 82.86 km²

(平成11年10月1日現在・国土地理院調べ)